平成 16年度

年　　報

市立大町山岳博物館

目　　次

平成 16 年度の活動から・・ 4

Ⅰ　展示事業
1．企画展示・特別展示・・ ○
2．常設展示・・ ○

Ⅱ　調査研究事業
1．調査研究・・ ○
2．研究発表・執筆活動・・ ○

Ⅲ　資料収集保管事業
1．新収蔵資料・・・ ○
2．資料貸し出し等・・ ○
3．資料の保管管理・・ ○

Ⅳ　動物飼育・傷病鳥獣保護事業
1．動物飼育・・ ○
2．主な動物の増減・・ ○
3．保護動物・・ ○

Ⅴ　教育普及事業
1．主催事業・・ ○
2．各種実習への対応・・ ○
3．各種学習会等への館内対応・・ ○
4．ボランティア活動・・ ○
5．テレビ・ラジオ・新聞等への出演・協力・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ○
6．ホームページ・・・ ○
7．出版物一覧・・・ ○
8．館外の活動への参加・協力・・ ○

Ⅵ　友の会活動
1．組織・・・ ○
2．運営部活動・・・ ○

3．事業部活動・・ ○
4．編集部活動・・ ○
5．サークル活動・・ ○

Ⅶ　ライチョウ保護事業関係
1．山岳博物館ライチョウ保護事業検討委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ○
2．第５回ライチョウ会議大会・・・ ○

Ⅷ　その他
1．理事・会長・委員・・・ ○

Ⅸ　運営
1．組織および職員構成・・ ○
2．協議会・・・ ○
3．入館者状況・・・ ○
4．平成16年度予算・決算・・ ○

Ⅹ　関係条例・規則
1．市立大町山岳博物館条例・・ ○
2．市立大町山岳博物館規則・・ ○

Ⅺ　利用案内・・ 47

平成 16 年度の活動から

館　長　柳 澤 昭 夫

２１世紀、「環境」はまぎれもなく地球のキーワードである。レイチェル・カーソンが、環境ホルモン（有害化学物質）による環境汚染により、「小鳥の鳴かない春が来る」と警告してから４０年、有害化学物質、増加する Co2 による地球温暖化、核廃棄物による放射能汚染など、基本的な環境問題に視点をあてたフォーラム、「三つの極地から地球環境を考える」を開催した。北極、南極、そして第三の極地ヒマラヤ、極地だからこそ見えてくる汚染されていく地球について、ノルウェーの極地研究所の太田昌秀氏、国立極地研究所の小島秀康氏、エベレスト登頂者の平林克敏氏を迎えてのフォーラムだった。博物館の課題である環境教育活動の展開について示唆に富んだ実りの多い場であった。

立山博物館との共同企画で、企画展「伊藤孝一没後 50 年　山岳映画誕生　大正末、雪の絶巓にカメラを廻す」を開催した。併せて、立山博物館、中日新聞社、大町山岳博物館の共同主催で「山岳映像企画２００４　山岳映画の先駆者、伊藤孝一没後 50 年　山嶽活寫　それは、ホーム・ムーヴィーから始まった」を開催した。伊藤孝一は映画史や登山史の上で正しく評価された人とは言いがたいが、冬季登頂を狙う登山が始まったばかりのこの時代に、立山から槍ヶ岳までの冬季縦走を成し遂げているのである。登山史上再評価してよい偉業である。羽田栄治氏らの努力で、記録フィルムが今なお新鮮な映像として甦り、提供できたことは、大きな喜びだった。地方都市の博物館が質の高い企画を展開するには、今後、他館や研究組織､大学との協働が欠かせないだろう｡大町山岳博物館としては新しい試みであった。

４０年にもわたる博物館のライチョウ保護事業について、総括を行い、事業の成果を評価し、問題点や課題を明確にし、今後どうあるべきか検討中である。研究者、学識経験者等で委員会を設け、野外調査、低地飼育、教育活動の展開等を主な観点として、検討いただいている。５月末には結果をまとめ、今後の方向について提言していただく予定である。

私達は科学的に考えることを学んできた｡それが物事の本質へ迫る正しい方法であるとし、合理的、論理的でないものは、むしろ、排除してきた。事実そうした方法で多くの成果を手に入れてきた。だが、人が解明し、展開した文化や歴史は、自然と人間の関係の中では、人間の側にかかわるほんの些細なエリアで展開したに過ぎず、都合の悪いところを切り捨て、再構築した世界であり、人はその小さなエリアの主人公であるに過ぎない。論理的、科学的に考える方法は明確な結論を導き、経験的、感覚的に考える方法は結論が曖昧であり、論理的実証性に乏しく、否定的な方法として、むしろ排除されてきたので、感覚や経験で曖昧に考える訓練を積んでいない。その結果、曖昧であるが重要な事象や想像して考えることを切り捨てているかも知れない。

知識や情報に経験という曖昧な事象を組み合わせて構成しても、なお、現実はそれをはる

かに越えて、多様で、複雑である。たとえ多くの知識を手に入れたと錯覚しても、経験と感覚的裏付けのない知識は、リアリティを持たない。大事なことは、感性でとらえ、想像を膨らませ、経験を深め、そして、知識を検証することである。感性豊な想像力が、大胆な仮説をたて、新たな方法論を展開し、未知のエリアへの挑戦を可能にする。だからこそ、今、感性で考える、体験して考える学習の重要性が提起されているのだろう。ここに博物館教育の新たな展開が求められているのではないだろうか。

不思議を発見する、疑問をますます増やして帰っていただける博物館でありたいと思う。

Ⅰ　展示事業

１．企画展示・特別展示

（１）企画展　針ノ木岳慎太郎祭パネル展（担当　岑村）

①会　期：平成１６年４月２９日（木・祝日）～６月６日（日）

②会　場：１階ホール

③概　要：６月６日の針ノ木岳慎太郎祭の啓発・ＰＲ展示

④主な展示資料：

・記念バッジ　・百瀬慎太郎レリーフ　・記念誌　・年表　・パネル写真　など　７１点

⑤見学者数：３，３３６名

⑥展示協力者（敬称略・五十音順）：赤羽　英男　　百瀬　　堯

⑦所　見：多くの方に、百瀬慎太郎の人となり、祭りの来歴や内容を知っていただけた。

（２）企画展　動物写生画展（担当　関）

①会　期：平成１６年７月３日（土）～７月１９日（月・祝日）

②会　場：講　堂（入場無料）

③概　要：春の動物写生大会に参加した園児、児童・生徒のみなさんが描いた博物館付属園の動物や風景の絵画全作品 120 点を展示。

④主な展示資料：園児、児童・生徒による絵画作品 120 点

⑤関連イベント：「春の動物写生大会」（4 月 24 日～5 月 9 日）

「写生コンクール表彰式」（5 月 9 日）

⑥所　見：毎年恒例の本展だが、今年は付属園で飼育中の動物や付属園の役割などを写真パネルや説明パネルによって紹介した。これによって、付属園でのカモシカの保護・繁殖事業や、野生動物の救護活動について広く知っていただく機会が増えたと考える。

（３）特別展　森下恭写真展　大いなる黒部（担当　岑村）

①会　期：平成１６年７月１０日（土）～９月５日（日）

②会　場：１階ホール・特別展示室

③概　要：

黒部の減流域に魅せられ、２０年以上にわたって撮り続けてきた森下恭氏の写真展。第Ⅰ期「水」（７月１０日～８月１３日）、第Ⅱ期「岩」（８月１４日～９月５日）の二期構成とし、大町市制施行 50 周年記念事業の一環として開催した。

④主な展示資料：

カラー半切・全紙写真パネル　総計９６点（第Ⅰ期５２点　第Ⅱ期４４点）

⑤見学者数：７，９３６名（第Ⅰ期４，８０７名　第Ⅱ期３，１２９名）

⑥関連イベント：

ａ．山博清談（対談）２回

・１回目　７月１１日（日）、「水の巡り　雪氷学から見た黒部の表情」。

会場にて。視聴者２７名。立山カルデラ砂防博物館学芸員の飯田肇氏と森下氏の水をめ

ぐっての対談。

・２回目　８月１５日（日）、「岩の来歴　黒部を巡る地質学最新の成果から」。

会場にて。視聴者３２名。信州大学理学部地質科学科教授の原山智氏と森下氏の岩をめぐっての対談。

⑦所　見：

黒部川と流域の山々について広く紹介できた。また黒部に取材した作品でありながら、水、大地、命という普遍的テーマに迫る作者独特の展示表現を多く方にご覧いただくことができた。２回の対談は、それぞれ雪氷学と地質学の専門家をゲストに迎えたために科学的観点と森下氏の感性が呼応する進行となり、展示作品の見方について視聴者に重要な示唆を与えてくれた。

（４）企画展　キノコ展（担当　千葉）

①会　期：平成１６年９月２３日（木・祝）～９月２５日（土）

②会　場：講　堂（入場無料）

③概　要：パネルや顕微鏡をとおしてキノコの正体やミクロの世界を紹介。また今年採れる生のキノコを展示した。

④見学者数：５９名（芳名簿記帳者数）

⑤関連イベント：キノコ学習会

⑥展示協力者一覧　（敬称略・五十音順）：飯島八郎・太田勇・清沢由之・高野哲哉・博物館友の会

⑦所　見：

今年はマツタケが豊作であったことから、一般の関心も高く、多種類のキノコの発生し165 種という多種類を採集・展示できたことは、来館者に驚きと興味を与え、大きな効果が得られたと思う。

キノコ学習会では、ホンシメジを採集する者など大変好評だった。

（５）企画展　伊藤孝一没後 50 年　山岳映画誕生　雪の絶巓にカメラを廻す

（担当　岑村・関）

①会　期：平成１６年１０月２日（土）～１２月５日（日）

②会　場：１階ホール・特別展示室

③協同企画：富山県［立山博物館］（立山町芦峅寺）

④概　要：

伊藤孝一没後５０年記念、大町市制施行５０周年記念、［いきいき大町　生涯学習フェスタ　2004］参加企画展。

大正末期に「雪の立山、針ノ木越え」「雪の薬師、槍越え」などの画期的な撮影登山を行い、日本最初期の山岳映画を作った名古屋の伊藤孝一について、その足跡と作品を盟友百瀬慎太郎・赤沼千尋らの登山家群像とともに紹介した。

⑤主な展示資料：

・伊藤孝一使用シネカメラ、使用類似シネカメラ　・伊藤の遺した道具類　・伊藤の孔版印刷冊本　・百瀬慎太郎、赤沼千尋関係資料　・「雪の立山、針ノ木越え」関係資料　・「雪の薬師、槍越え」関係資料　・「雪の立山、針ノ木越え」、「雪の薬師、槍越え」ダイジェスト映像　・立山登山案内者等の装備　・大町登山案内者等の装備　　総計１３５品目

⑥見学者数：３，５１７名

⑦関連イベント：

ａ．山岳映像企画 2004

山岳映画の先駆者、伊藤孝一没後 50 年　山嶽活寫

それは、ホーム・ムーヴィーから始まった

富山県[立山博物館]・中日新聞社との共同主催、中日映画社・日本山岳写真協会・(社)日本映画テレビ技術協会の後援、アルパインツアーサービスの協力で名古屋市・富山市・大町市の３会場で開催した。

内容は、伊藤都留子氏所蔵の未公開ホーム・ムーヴィー２本の解説上映、布川欣一（登山史研究家)・羽田栄治（山岳映像作家)・柳澤昭夫館長による壇上討論「映し込まれた 80 年前の山と人　―日本登山史・映像史のなかで―」、「雪の薬師、槍越え」上映の三部構成とした。

・名古屋会場　　９月　４日（土）　愛知県中小企業センター講堂　　視聴者６００名
・富山会場　　１１月　６日（土）　富山県民小劇場オルビス　　視聴者　８０名
・大町会場　　１１月２０日（土）　サンアルプス大町大会議室　　視聴者１３０名

ｂ．ミニゼミ

・１０月　２日（土）　　企画展オープニング解説　　１２名参加
・１０月３１日（日）　　伊藤孝一　人と映像　　１７名参加
・１２月　５日（日）　　企画展最終日解説　　１１名参加

⑧展示協力者一覧（敬称略・五十音順）：

ａ．個人

赤沼　淳夫　　赤沼　皆子　　井垣　真理　　井垣　美和　　伊藤都留子　　伊藤　正治
岩垣　裕一　　江幡　重實　　岡田　　汪　　神子嶋能明　　神子嶋俊子　　日下部水棹
黒岩　俊夫　　小松　和子　　櫻井　幸雄　　捧　　弘　　高木　三郎　　竹内　北子
千葉　彬司　　寺島　禎一　　中垣　理子　　布川　欣一　　服部　信之　　羽田　栄治
前田　明徳　　松岡　朋子　　松下　泰子　　百瀬　　堯　　八木　信忠　　矢野　　進
吉井　亮一　　米原　　寛

ｂ．機関、団体

北アルプス広域連合　　世田谷区立世田谷文学館　　中日映画社　　中日新聞社
東宝株式会社東宝スタジオ　　富山県立図書館　　株式会社ナックイメージテクノロジー
日本大学芸術学部

⑨所　見：

他博物館との協同企画による当館初の企画展となった。協同企画ということで、両者が

情報と収蔵資料とを出し合い、立山博物館がまず開催し（７月２４日～８月２９日)、1ヶ月後にその中軸部分に独自に資料を追加して当館で開催した。また山岳映像企画については協同で主催した。

北アルプスをめぐる人と映像が展示の中心であり、立山町と大町市は最も重要なゆかりの地であるだけに、両地で同様の企画展を催した意義は大きい。立山博物館との連携により単独主催の限界を越える濃い内容とすることができ、また展示にまつわる立山博物館のノウハウも吸収することができた。

主に予算規模や財政システムの相違から、総じて立山博物館の負担を大きくしてしまった。反省点として、今後も外部機関とのより良い連携事業を模索したい。

（６）その他の特別展示

①全国雪形写真展（担当　岑村・関）

平成１６年６月９日（水）～７月８日（木）　１階ホール

５月２２日（土）に大町市文化会館で開催された「全国雪形フェスティバル」に展示した大町市役所企画課作成の写真パネルなど３５点の展示。１，６１９名見学。

②国営アルプスあずみの公園開館記念展示（担当　岑村・千葉）

平成１６年７月２４日（土）～８月１日（日）　公園内テーマ展示館

当館と大町市のＰＲのために、ポスター、パンフレット、写真など９点を展示。

③平成１６年度ダム・湖・川の写真コンテスト入賞作品展（担当　岑村・千葉・関）

平成１６年１２月１８日（土～）平成１７年１月３０日（日）　２階レクチャースペース

国土交通省北陸地方整備局大町ダム管理所主催コンテストの入賞作品１０点の展示。３７２名見学。

２．常設展示

（１）コマクサのおはなし（担当　千葉）

①時　期：平成１５年度～現在

②場　所：２階展示室

③概　要：これまで、博物館で観察してきたコマクサの展示に、平成１６年度に得られた知見を追加した。

④主な展示資料　２年目の開花個体写真、自生地のマルハナバチの写真および蒴果を食べるイワヒバリの写真

⑤所　見：コマクサが２年目で開花することはこれまで知られていなかった。また昆虫や鳥との関係も解説された参考書などはあまりなかったことから、今回、撮影した写真をつけ加えることでより山岳の博物館らしい、分かりやすい展示になったと思われる。

（２）安曇野の植物（担当　千葉）

①時　期：平成１６年１１月～現在

②場　所：２階レクチャーホール

③概　要：今までに撮り貯めた早春から初夏にかけて、安曇野で見られる植物写真を Ａ２判のパネルで紹介。

④主な展示資料：

フクジュソウ・カタクリ・ヒトリシズカ・ニリンソウ・サクラソウ（桃色・白色）・ユキザサ・チゴユリ・イカリソウ・キバナイカリソウ・ラショウモンカズラ・コメガヤ・キンギンボク

⑤所　見：植物展示は特に点数が少なく、今回は安曇野を彩る早春～初夏の植物を取り上げることでより充実した展示ができたと思われる。

（３）立山ロープウェイのメインワイヤー（担当　岑村）

①時　期：平成１７年１月１２日（水）～現在

②場　所：１階ホール

③概　要：かつて実際に使われたワイヤーの一部、５０cm を展示。

（４）對山館模型と関係写真（担当　岑村）

①時　期：平成１７年１月２７日（木）～現在

②場　所：１階ホール

③概　要：５０分の１模型などにより、大町にあった登山文化の拠点旅館「對山館」を紹介。

（５）一本ソリ（担当　岑村）

①時　期：平成１７年２月１２日（土）～３月３１日（木）

②場　所：１階ホール

③概　要：小谷村で使われた一本ソリを、使用状況参考写真とともに展示。

Ⅱ　調査研究事業

１．調査研究

（１）南アルプス北部地域高山帯生態系撹乱要因調査協力（担当　清水・千葉）

南アルプス高山帯生態系撹乱要因調査（山梨県南アルプス高山帯生態系調査委員会開催）として、平成１６年６月１７日～６月２１日の間、山梨県南アルプス北岳・間ノ岳・農鳥岳周辺で実施されたライチョウ調査に参加協力した。生息個体数・繁殖状況・標識付け・糞便採取などの調査を分担した。調査成果については平成１７年３月に、山梨県に提出し、県より環境省へ「平成１６年度自然環境基礎調査」報告書として提出された。

（２）ライチョウ血液原虫を媒介する吸血昆虫調査協力（担当　清水）

爺ヶ岳において、平成１６年７月２７日～７月２９日に実施された、日本大学生物資源科学部の「ライチョウの消化管内寄生虫相およびライチョウの個体群動態に関する調査」ならびに「住血寄生虫相および媒介昆虫の生態に関する調査」に参加協力し、ライチョウ血液原虫を媒介すると思われる吸血昆虫・ライチョウやライチョウの天敵と考えられる哺乳動物の糞便採取等を行った。成果については日本大学でまとめられた。

（３）ライチョウ生息・繁殖環境調査解析協力（担当　宮野・柳澤）

信州大学農学部では、北アルプス爺ヶ岳周辺の航空写真を基に、生息環境・営巣環境の解析を進めている。爺ヶ岳において、平成１６年８月１日に登山道や過去のライチョウの生息環境調査で記録のある巣場所たナワバリ範囲（推定を含む）などのＧＰＳ測量に協力した。

（４）ライチョウの外敵可能性動物調査（担当　清水）

ライチョウの育雛期である平成１６年８月４日～８月７日に、スバリ岳から蓮華岳の稜線部において実施した。ライチョウの生息域である稜線部の登山道を中心にキツネ・テン・オコジョなどの糞・足跡など痕跡確認調査を主体とし、ライチョウの生息状況に関わる基礎資料の一つとした。調査の結果を平成１５年調査と比較すると、スバリ岳から針ノ木峠の間より針ノ木峠から蓮華岳の間での確認数が多い傾向がみられた。

（５）唐松岳植生復元整備確認調査（担当　千葉・清水・宮野・関）

唐松岳において平成１６年９月２７日～２９日に実施した。６年を経過したムシロによる緑化工法のモニタリングを行った。（千葉・清水）

唐松岳において平成１６年１０月１４日～１５日に実施した。ムシロの確認作業を行なった。（宮野・関）

（６）大町市におけるクロツバメシジミの生息状況（担当　清水）

平成１３年調査からの継続調査として高瀬川を中心として大町市平から松川村・池田町までの間の生息地の確認とその環境、生態観察をとおして１年間の発生回数の確認について調査した。

調査は平成１６年４月２２日～１０月２８日まで２２回行った。例年成虫の発生（羽化）は、いくつか成虫を確認することができない時期により区切られ、明瞭な発生回数を知ることができるが、本年では成虫は６月３日から６月１６日の間を除き、５月７日から１０月２８日の間個体数の変動はあるが毎回確認された。平成１６年度の当該地域における本種の発生回数は、個体数の大きなピークより５月中旬・７月上旬・９月下旬から１０月上旬の３回のほか、８月下旬から９月上旬にも１回見られたと考えられた。

（７）大町市に生息する高山蝶　―ミヤマモンキチョウについて―（担当　清水）

湯俣岳周辺はミヤマモンキチョウの最低標高生息地として知られているが、本種の生息状況についての報告は少ない。本種の生息状況を把握することを目的として、平成１６年７月１４日～７月１５日に本種の発生状況と食草であるクロマメノキの分布状況について調査した。調査地においては、近似種であるモンキチョウは多く確認することができたが、ミヤマモンキチョウについては翅の破損状態より羽化後かなりの時間経過を推察できるメス・１個体しか確認することが出来なかった。クロマメノキについては広く自生しているが、本主の卵の確認をすることができた食草は局地的であり、発生量については把握することができなかった。

また、大町市はミヤマモンキチョウの北アルプスにおける分布の北限地域にあたるが、分布には疑問が多い。平成１６年度について本調査は実施予定がなかったが、他の調査の入山時にいくつか本種についての所見を得ることができた。調査日時は、平成１６年７月２０日～７月２３日（三ッ岳～烏帽子岳コマクサの生活史調査と並行調査）、７月２７日～７月２９日（爺ヶ岳ライチョウ住血原虫を媒介する吸血昆虫調査と並行調査）、８月４日～８月７日（蓮華岳～スバリ岳・ライチョウ調査と並行調査）である。調査内容は、成虫の確認のほか幼虫の食餌植物、成虫の訪花植物について調査した。今回の調査では烏帽子岳周辺と針ノ木岳から蓮華岳の間において、ミヤマモンキチョウの生息の確認をし産卵環境等についていくつかの見地を得ることができたが、爺ヶ岳においては本種の生息の確認することができなかった。

大町市は本種の北アルプスにおける分布の北限地域にあたるため、今後は調査時期を厳選し、さらに精度の高い生息調査を実施し正確な分布を把握したい。

（８）里山の甲虫調査（担当　清水）

里山に生息する昆虫を指標として里山の環境保全についてを考えるため、甲虫の背中に文字や数字を書き込み放し、再捕獲することにより行動範囲を調べた。本調査は長野県環境保全研究所との共同調査という形で、山岳博物館友の会「こども探検クラブ」の小学生１１名の協力を得て実施した。平成１６年では大町市から穂高町にかけてカブトムシ・ミヤマクワガタなど１３３個体にマーキングをつけ、そのうち２個体が再捕獲された。なお、このような調査の性格上、単年度では結論が得られないことから、数年間の継続調査としたい。

また、今後はデータの精度を上げるため、マーキング個体数を増やす必要があり、調査人数を増やすことが課題である。

（９）21 世紀 COE プログラム研究協力（担当　清水）

岐阜大学では、平成１４年度より文部科学省の助成による２１世紀 COE プログラム「野生動物の生態と病変からみた環境評価」研究教育事業を実施している。この研究にかかわる研究協力者として、平成１５年よりライチョウの糞便（野生個体・飼育個体）の採取などを実施している。平成１６年度では７月２０日～７月２３日に烏帽子岳から三ツ岳周辺より、８月４日～８月７日には、スバリ岳から蓮華岳周辺においてライチョウの糞便検体を採取し提供した。

（１０）安曇地方の絶滅危惧植物の生活史と増殖法の研究（担当　千葉）

対象植物は、絶滅危惧ホロムイソウ（白馬村）、アズミノヘラオモダカ（三郷村、堀金村）、絶滅危惧Ⅱ類ビッチュウフウロ（白馬村）、準絶滅危惧フクジュソウ（白馬村）、ササユリ（大町市）で、生育地での観察とともに栽培個体の観察を行った。

① ホロムイソウ

開花が見られたことから葯の裂開状況について観察を行った。秋になり種子採集を試みたがほとんどの袋果が何物かによって食害されていた。このため、種子を採取することができなかった。さらに葯の裂開と温度について課題が残された。

② アズミノヘラオモダカ

発芽率の調査を行い、その後の成長について追跡調査を行った。同時に現地の生育状態の確認を行った。

③ フクジュソウ

生活史研究のひとつとして博物館で育てて３年目になる個体の観察を行った。

④ ササユリ

夜間にササユリの訪花昆虫の観察を行い、スズメガが訪れていることを再確認した。生活史研究のひとつとして博物館で育てて４年目になる個体の観察を行った。

（１１）コマクサの生活史の研究（担当　千葉）

博物館で花冠が開く前の個体を用いて袋がけを行い受粉および結実特性について関さした。昨年発芽した個体の追跡調査を行った。７月下旬に北アルプス烏帽子岳に、８月上旬に蓮華岳において葯の裂開様式について観察を行った。

①所　見

出芽は４月上･中旬からはじまり、早いもので５月上旬から有花茎を付けた。したがって、コマクサは栽培すると早いもので発芽後２年で開花に至ることが明らかになった。

博物館での袋がけ実験および北アルプスでの葯裂開様式の観察から、コマクサの葯は花冠が開く直前に裂開していて、自家受粉よりも他家受粉が促進されることが示唆された。従って、花の構造からして、コマクサの他家受粉にはマルハナバチが大きく貢献することが考えられた。

（１２）大町周辺の山人たちの活動と近代登山黎明期への影響（担当　関）

遠山品右衛門、上條嘉門嘉門次、小林喜作ら北アルプスの山人（やまうど）について、彼らが使った道具など関係資料の所在を確認するとともに、二次資料を収集した。主に文献上で見られる関係記述を個別に拾いあげてまとめた。今後はこれをもとに三方の生涯や当時の登山史上での出来事などを盛り込んだ年譜を作成し、平成 18 年度以降の企画展での展開を目指して準備を進めたい。

（１３）ニホンカモシカの糞中窒素含有率に関する研究協力

（担当　清水・飯島・菅沼・倉間）

ニホンカモシカの餌資源の季節的な利用効率を検討することを目的とした日本大学生物資源科学部野生動物学研究室の調査として、平成１７年２月８日～２１日の間、飼育中のニホンカモシカへの酸化クロムの投与、糞便採取ならびに採食時間記録の為の赤外線ビデオ撮影等を行い、飼育下カモシカの採食時間と採食量・消化速度と消化率を調査した。この調査は平成１７年１０月まで３ヶ月ごとに実施される予定である。

（１４）チベットで採集された蝶類（担当　清水）

１９９７年８月に長野県山岳協会と西蔵登山協会と合同登山隊がチベット自治区キズ峰の初登頂に成功し、その時採集されたチョウ類（９点）が当館に寄贈されている。その標本について（財）進化生物学研究所にて種の同定を行った。この採集記録については、同研究所研究員と連名で、（財）進化生物学研究所研究報告に投稿する予定である。

２．研究発表・執筆活動

（１）絶滅危惧植物関連（担当　千葉）

５月１６日に松本市において開催された「日本産草本植物の生活史研究プロジェクト第 8 回研究発表会」で長野県絶滅危惧ＩＢ類ビッチュウフウロの生活史および開花特性について発表を行った。

これまでの研究成果を「長野県絶滅危惧ＩＢ類ビッチュウフウロの生活史および開花特性」と題して、研究指導者である清水建美氏（信州大学名誉教授・金沢大学名誉教授）と連名で、長野県植物研究会誌に投稿、受理された。

（２）ライチョウ保護事業関連（担当　清水）

９月１７日に東京大学農学部において開催された「第 10 回日本野生動物医学会大会」で村井厚子（岐阜大・獣医病理学）、村田浩一（日大・生物資源）、山口剛士・福士秀人（岐阜大・獣医微生物学）、米丸加余子・高須伸二・柳井徳磨・柵木利昭（岐阜大・獣医病理学）と連名で、「飼育下のライチョウ２羽に認められた腎臓病変の病理組織学的検索」と題したポスターセッション発表を行った。

（３）執筆活動

館の調査研究・普及事業にかかわる執筆実績について担当者ごとに列記する。なお、新聞への連載については別途の実績一覧等に示す。また、書籍の監修については別項の通り。

①執筆担当者

柳　澤

・雪崩対策再考

長野県山岳総合センター年報　平成 17 年 3 月

宮　野

・昔の人とライチョウのつながり

ＢＩＲＤＥＲ　2004 年 9 月号　文一総合出版

岑　村

・八十年前の山岳映画、今、その真価とは…

市立大町山岳博物館　『山と博物館』第 49 巻第 10 号　平成 16 年 10 月 25 日

清　水

・千葉彬司・清水博文（2004）第 1 節　脊椎動物．三郷村誌Ⅱ　第 1 巻　自然編：317-322,326-333,337-339,　三郷村誌編纂委員会編.

千　葉

・フクジュソウ（長野県準絶滅危惧）

市立大町山岳博物館　『山と博物館』第 49 巻第 4 号　平成 16 年 4 月 25 日

関

・大町登山案内者組合のはじまり（後）

市立大町山岳博物館　『山と博物館』第 49 巻第 4 号　平成 16 年 4 月 25 日

・雪形「種まき爺さん」定点撮影

市立大町山岳博物館　『山と博物館』第 49 巻第 5 号　平成 16 年 5 月 25 日

・日本アルプスの山と人

栗田貞多男著 『日本の屋根 信州山岳大展望』 平成 16 年 8 月 1 日 信濃毎日新聞社刊

②新聞連載　大糸タイムス「山博ゼミ」

・実績一覧：

発行月日	回	執筆者	題　　名
4 月 3 日	54	清水	リスとネズミのかじり痕
17 日	55	千葉	サルとバナナとミズバショウ
5 月 15 日	56	関	山の伝説④　雪形
29 日	57	岑村	山の平武先生
6 月 5 日	58	清水	ヒメギフチョウの生活史
7 月 3 日	59	岑村	大沢の石室
17 日	60	千葉	花に秘められた作戦とは!!

31 日	61	関	「日本中央大山系横断記」
8 月 7 日	62	岑村	『静夜曲』の中の大町（前）
21 日	63	清水	里山の甲虫調査
9 月 4 日	64	岑村	『静夜曲』の中の大町（後）
10 月 2 日	65	関	山の伝説⑤　佐々成政の埋蔵金
16 日	66	岑村	80 年前の山岳映画　今、その真価とは…
30 日	67	岑村	槇有恒の大町疎開と百瀬慎太郎
11 月 6 日	68	関	黒部の山賊　―鬼窪善一郎の狩猟具―
20 日	69	岑村	『夫婦登山ことはじめ　－袴で登った劔岳－』を読んで（前）
12 月 4 日	70	関	常念岳の祠と雷
18 日	71	岑村	『夫婦登山ことはじめ　－袴で登った劔岳－』を読んで（後）
平成 17 年 1 月 15 日	72	関	測量登山と地形図
2 月 5 日	73	関	山の伝説⑥　八面大王
13 日	74	岑村	山川勇一郎　人と作品
19 日	75	関	登山史見て歩記①　渡辺敏の記恩碑
3 月 5 日	76	岑村	黒部川　平の渡しの移り変わり
19 日	77	関	登山史見て歩記②　西正院（大姥堂）
26 日	78	岑村	かけ上がる春　おしよせる春

・所　見：

分担執筆して、平成１５年３月１日から毎週土曜日に掲載中である。平成１６年２月末まで毎週掲載し、３月以降は大町市文化財センターの枠も加え、交互連載を続けている。

大町周辺の自然と歴史・文化について、新聞の紙面を借り多くの方に紹介する意義は大きいと思われる。

③書籍監修　栗田貞多男著／長野県山岳協会・大町山岳博物館監修

「日本の屋根　信州山岳大展望」（信濃毎日新聞社刊、平成 16 年 8 月 1 日）

（担当：関）

日本写真家協会などに所属する著者からの依頼を受け、当館で監修を行なった。本書は北・南・中央アルプスなど長野県の山岳を豊富な写真と解説で紹介した内容。体裁は A4 判・ソフトカバー・128 頁（オールカラー）、発行部数 4000 部、定価 2310 円。

地形・気象以外の部分は当館職員で校閲可能な内容であり、博物学的な側面からも日本アルプスを一般読者向けに紹介するという編集趣旨から、当館の教育普及活動の一環としても有効であった。

Ⅲ　資料収集保管事業（担当　千葉・関）

１．新収蔵資料

平成１６年４月１日から平成１７年３月３１日までに、寄贈によって次の資料を収集した。

（敬称略）

受入日	資　料　名	数量	入手先	住所	備　考
4／3	書籍	1点	吉川宗雄	池田町	
5／2	ピッケル	1点	柏原幸雄	大町市	
6／24	スズメバチの巣	6点	降旗　正	大町市	
7／24	写真	1点	木下正之助	長野市	
8／16	パンフレット	1点	太田博人	横浜市	
9／15	書籍	1点	大和重男	大町市	
11／2	原稿等	1式	三角礼子	日野市	
11／9	竹内鳳次郎・ヒサ夫妻等使用テント	1式	竹内龍三	横浜市	
12／11	スキー（2点）、シール	3点	加藤一満	瀬戸市	
12／16	書籍	17点	宮島俊名	豊島区	

２．資料貸し出し等

年 月 日	内　容（場所等）	主　催　等	備　　考
H16. 4／27	川村善之著『日本民具の造形』（H16.7刊）	㈱淡交社（京都市）	常設展示資料（登山史）の写真掲載許諾
5／21～31 5/26～6/1	『大町市制50周年記念誌』	大糸タイムス㈱（大町市）	館史関係のプリント貸出
6/14～7/5	『北安曇誌』近世編	大町市文化財ｾﾝﾀｰ・相沢亮平（大町市）	「大町組絵図」ネガフィルム貸出
6／17	週刊朝日百科『花の百名山』	朝日新聞社出版局（東京都中央区）	貸出中のポジフィルム返却
6/29～9/9	『ふるさと大町市のあゆみ』	一草舎出版（長野市）	登山史関係等のプリント貸出ほか
7／12	猿ヶ城跡高度調査	猿ヶ城風穴調査委員会・猪又毅（大町市）	高度計を貸出
7/23～9/22	『信州の風景画』第2巻油彩・水彩画編	㈱郷土出版社（松本市）	絵画作品のポジフィルム貸出
8／27	「静岡県土地家屋調査会西遠支部だより」	同会・山本道男（浜松市）	常設展示資料（登山史）の写真掲載許諾
9/8～10/5	展示参考	大町市文化財ｾﾝﾀｰ（大町市）	カモシカ毛皮を貸出

9/17～12/3	テレビ神奈川・生涯学習番組『神奈川再発見』「近代日本絵画に見る自然と人生」	毎日映画社（東京都千代田区）	登山史関係のプリント貸出
10/21～12/3	JA 大北 2005 年ｶﾚﾝﾀﾞｰ	JA 大北（大町市）	雪形ポジフィルム貸出（解説文転載含む）
12／15	老人大学シニア研修講義	同講師・武田武	ライチョウ剥製の貸出
12 ／ 16 ～ H17．3／8	井上靖文学館冬の特別企画「氷壁」展	井上靖文学館（静岡県）	登山史資料の貸出
12／21～ H17．1／31	ボーイスカウト長野県大会スカーフデザイン	ボーイスカウト大町第一団・田中恒治	カモシカのプリント貸出
2/4～2/26	白馬館 100 年史年表および写真展	㈱白馬館	登山史関係のプリント貸出
2/22 ～ 5/10（予定）	企画展「西沢家文書特別展」	大町市文化財ｾﾝﾀｰ（大町市）	民俗資料等の貸出
3/9 ～ 4/28（予定）	平成 16 年度大町市指定文化財速報展示	大町市文化財ｾﾝﾀｰ（大町市）	自然史関係資料（昆虫標本）の貸出

（敬称略）

ここにあげた以外にも、収蔵資料などに関する貸し出しや照会が多数あった。

３．資料の保管整理

随時、学芸員による資料整理・登録を実施。

（１）人文系の資料

①収蔵資料の点数

山岳資料 3,445 点、寄託資料 498 点（一般 334 点、JAC164 点）、美術資料 190 点、民俗資料 928 点、歴史資料 49 点、考古資料 158 点。

※この点数は通番および整理番号の総計であり、実際の個別の点数はこれより大幅に増える。これは、同様の資料や関連する資料を一括してひとつの番号を取得している場合があるためである。

②現　状

山岳資料を中心に平成 16 年度分寄贈資料や過去の未登録資料を新規登録した。ただし、記録写真は未撮影である。

現在、山岳資料は受付台帳（PC での検索可能）・資料カード・写真（プリントとネガで保存）で記録されている。ほかの資料についても受付台帳（PC での検索可能）・資料カードで記録されている。これによって、台帳（PC）から検索し、資料カードや写真で詳細記録の確認を行なうことができる。

③今後の作業と課題

資料撮影の段階として、資料カードに記録された情報と撮影した写真の画像をデジタル化してデータベースを構築したい。このデータベース作成の方法としては、一括して外部業者へ委託する方法と、一部の作業（写真のデジタル化のみなど）に限って外部業者に委託し市

販のデータベース・ソフト（アクセスなど）を使って博物館職員が入力・編集作業を行う方法と、全作業を博物館の機材（PC、スキャナー）を使って行う方法の 3 種類が考えられる。データベースが構築することで外部からの照会などに、より迅速に対応でき、将来的には印刷物や HP で情報公開し、当館収蔵資料を多方面の調査研究や教育普及に一層広く活用してもらえるようにしたい。

（２）自然系の資料

①収蔵資料の点数

菌類（液浸標本）129 点、蘚苔類（乾燥標本）674 点、維管束植物（液侵標本）7 点・（さく葉標本）約 6,000 点、魚類（液浸標本）62 点、両生爬虫類（液浸標本）68 点、貝・甲殻類（液浸標本）13 点、哺乳類（剥製標本）229 点、鳥類（剥製標本）634 点、昆虫（標本ドイツ箱）164 点・（未標本作製資料）約 1,000 点・（液浸標本）27 点、地質約 1,600 点、その他液浸標本（調査研究資料）103 点

②現　状

これまでに保管されている維管束植物（さく葉標本）については、受入れ台帳などが一切ないことから､現在のところどれくらいの標本が収蔵されているかは正確な数は不明である。今後は採集年月日、産地名、採集者などを明らかにして、同定し直した後、データベース化を図ることが必要である。また、長期間にわたり温湿度管理のできない場所で保管されてきたことから、標本の消耗・劣化が激しく、それらについては検討し、何らかの対応しなければならない。

③今後の作業と課題

昨年同様、同定・整理する時間がとれずまったく取り掛かることができなかった。動物・植物標本庫については、昆虫等の侵入を防げる室内の確保、適正な温湿度管理が最重要課題である。

（３）図書資料

①収蔵資料の点数

1,335 冊（平成 15 年度）　平成 16 年度新規受け入れ図書数は不明

②現　状

図書管理までの労力を確保できず、未入力の新規書籍が増加している。

③今後の作業と課題

昨年課題に挙げたデータベース化ができなかった書籍について、分類することがまったくできなかった。専門書などの入力は学芸員各人が担当することになっているが、時間をとることができず、未入力の書籍が増えた。

Ⅳ　動物飼育・傷病鳥獣保護事業（担当　清水・飯島・菅沼・倉間）

１．動物飼育

① 飼育動物

種　　名	雄	雌	計	種　　名	雄	雌	不明	計
ニホンカモシカ	3	4	7	ヤマドリ＊	1			1
ホンドキツネ		1	1	トビ＊			7	7
ホンドタヌキ		1	1	フクロウ＊			1	1
ｱﾙﾌﾟｽﾏｰﾓｯﾄ	1		1	ｵｵｺﾉﾊｽﾞｸ＊			1	1
ｼﾍﾞﾘｱｵｵﾔﾏﾈｺ	1		1	キジバト＊			1	1
計	5	6	11	計	1		10	11

哺乳類５種　鳥類５種　　合計１０種　２２個体　　＊は２年以上の長期保護動物を含む

２．主な動物の増減

（１）繁殖個体

ａ．ニホンカモシカ

・平成１６年５月１２日　ミネコ（メス）とクロ（オス）の間に１個体（メス）の出産があった。親が高齢であり乳成分の低下があると予想されることと、親からの細菌感染を防ぐためにすぐに親と隔離し人工哺育を行い現在に至る。名前は公募し平成１７年２月８日に「さつき」に決定し広報した。

・平成１６年５月３１日　マヤ（メス）とシロ（オス）の間に１個体（メス）の出産があった。親が高齢であり乳成分の低下があると予想されることと、親からの細菌感染を防ぐためにすぐに親と隔離し人工哺育を行い現在に至る。名前は公募し平成１７年２月８日に「わかば」に決定し広報した。

（２）死亡個体

ａ．ニホンカモシカ（オス）平成１６年１２月１８日死亡。死因：出血性腸炎と考えられる。（平成１６年１２月９日よりブリーディングローン（繁殖を目的とした無償貸付）として岩手県盛岡市動物公園に貸出し中の個体）

ｂ．ホンドザル（メス）平成１７年２月１８日死亡。死因：長野県松本家畜保健衛生所にて解剖検査の結果、直腸壁と膣壁の癒着による便秘と診断された。

（３）移動個体

・ニホンカモシカ（オス）平成１３年５月１４日繁殖　愛称：五十鈴（いすず）
　平成１６年６月３日　ブリーディングローンとして、石川県森林公園へ貸出し。

・ニホンカモシカ（オス）平成１５年５月１４日繁殖　愛称：岳（がく）
　平成１６年１２月９日　ブリーディングローンとして、岩手県盛岡市動物公園へ貸出し。

（現在、ﾌﾞﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞﾛｰﾝとして富山ファミリーパークと石川県森林公園に計２個体貸出し中）

（４）今後の計画

ニホンカモシカについては、現在飼育している個体の高齢化、野外個体の導入の難しさ、飼育場の問題などから、毎年の出産の見込みは難しい。今後繁殖したニホンカモシカについては友好提携を結んでいるアルペン動物園との交換動物をふまえて、国内動物園間でブリーディングローンを行い、若い個体の確保を計画している。

シベリアオオヤマネコが単独飼育（オス）であることから、同種を飼育している財団法人日本動物園水族館協会加盟園とブリーディングローンの検討を進めている。

３．保護動物

長野県動物園連絡会に加入しており、長野県における傷病鳥獣救護施設の一つとして保護動物を受け入れている。

（１） 収容個体数

哺乳類　２種５個体

（ニホンカモシカ４・ニッコウムササビ１）

鳥類　１１種４０個体

（トビ８・ヤマドリ７・キジバト５・ツバメ５・チョウゲンボウ２・フクロウ１・オオコノハズク１・オシドリ１・スズメ１・アオサギ１・モズ１・ヨタカ１・ミサゴ１・シロハラ１・種不明（雛）４）

合計４５個体（そのうち死亡２１個体　放鳥獣７個体　現在飼育中１７個体）

平成１６年４月１日から平成１７年３月３１日までに保護収容した個体数であるが、前年度からの継続依頼８個体を含む。

（２）所　見

死亡個体のほとんどは、収容時には処置を行っても手遅れまたは、重症の個体であり保護収容当日か数日後に死亡している。このような傾向は過去の実績からも顕著であり、早期における獣医師の処置が不可欠であると考えられる。また、半年以上収容した個体は疾病が完治しても餌付いてしまうことも多く、野外に復帰させることが困難となり、長期収容個体となる傾向がみられる。

Ⅴ　教育普及事業

１．主催事業

（１）山博おもしろミニゼミ

原則１日２回、１回２０分程度の当番制館内レクチャー。半日あるいは１日の野外ゼミを実施することもある。

①実績一覧

月	日	曜	内　　容	大人	子供	計
4	3	土	リスとネズミのかじり痕（清水）	7	4	11
	4	日	春の鹿島槍（柳澤）	4	1	5
	10	土	ミズバショウのおはなし（千葉）	5	0	5
	11	日	ライチョウという名前（宮野）	0	0	0
	17	土	雪形ってな～に（関）	11	0	11
	18	日	大町は山がいっぱい（岑村）	21	0	21
	24	土	針ノ木大雪渓のスキー大会（柳澤）	5	0	5
	25	日	ライチョウの求愛（宮野）	5	0	5
5	1	土	山の伝説④　雪形（関）	22	1	23
	2	日	山の名前を覚えよう（岑村）	50	3	53
	8	土	サクラソウのおはなし（千葉）	0	0	0
	9	日	小鳥の声を聞く会（清水）	23	11	34
	15	土	五龍岳の春（柳澤）	3	0	3
	16	日	ライチョウの鳴き声（宮野）	19	0	19
	22	土	春のしおりづくり（千葉）	2	0	2
	23	日	黒部・丸山の登攀（柳澤）	3	0	3
	29	土	雪形ってな～に　その２（岑村）	9	0	9
	30	日	ライチョウのナワバリ（宮野）	38	6	44
6	5	土	北アルプスの山人　－上條嘉門次－（関）	19	0	19
	6	日	ギフチョウの生活史（清水）	9	11	20
	12	土	ササユリのおはなし（千葉）	6	0	6
	13	日	雨具と雨の観天望気（岑村）	53	3	56
	19	土	ライチョウの糞（宮野）	0	0	0
	20	日	山の伝説⑤　佐々成政の埋蔵金（関）	26	1	27
	26	土	日本最小のトンボ「ハッチョウトンボ」（清水）	18	15	33
	27	日	山登りがからだに与える影響（柳沢）	10	0	10
7	3	土	オトシブミのゆりかご（清水）	11	0	11
	4	日	コマクサのおはなし（千葉）	7	0	7
	10	土	明治時代の測量登山（岑村）	7	0	7
	11	日	山博清談「水の巡り」（岑村）	27	0	27

	18	日	小島烏水とウェストン（関）	28	0	28
	24	土	ライチョウの天敵（宮野）	18	1	19
	25	日	カブトムシのふしぎ（清水）	16	6	22
	31	土	昭和初期の鹿島槍の登山（柳澤）	45	6	51
8	1	日	ビッチュウフウロのおはなし（千葉）	31	6	37
	7	土	ライチョウのヒナ（宮野）	32	2	34
	8	日	北アルプスの山人　ー小林喜作ー（関）	18	2	20
	14	土	昆虫　ーチョウのふしぎー（清水）	21	2	23
	15	日	山博清談「岩の来歴」（岑村）	32	0	32
	21	土	ヨーロッパアルプス、 アイガー北壁の初登攀（柳澤）	28	0	28
	22	日	黒部の山賊　ー鬼窪善一郎の狩猟具ー（関）	59	0	59
	28	土	アズミノヘラオモダカって知ってる？（千葉）	4	0	4
	29	日	古代人と山とのかかわりを想像する（岑村）	12	0	12
9	4	土	アリとコオロギ（清水）	9	4	13
	5	日	トリカブトのおはなし（千葉）	26	0	26
	11	土	山の伝説　八面大王（関）	6	4	10
	12	日	ライチョウ　ーヒナから若鳥へー（宮野）	8	0	8
	18	土	ナイロンザイルと麻ザイル（柳澤）	8	0	8
	19	日	山名定着のひみつ（岑村）	13	0	13
	25	土	後立山連峰の石仏・祠（関）	35	1	36
	26	日	ライチョウの病気（宮野）	5	0	5
10	2	土	企画展オープニング解説（岑村）	12	0	12
	3	日	常念岳の祠と雷（関）	30	0	30
	9	土	秋の実り（タネについて）（千葉）	26	2	28
	10	日	クロツバメシジミの生活（清水）	4	2	6
	16	土	絵図に見る北アルプス（関）	16	0	16
	17	日	ライチョウの羽数（宮野）	12	0	12
	23	土	昆虫の生活…冬越しの準備（清水）	6	5	11
	24	日	コマクサと昆虫、そして鳥との関係（千葉）	2	0	2
	30	土	冬のエベレスト南西壁（柳澤）	19	0	19
	31	日	伊藤孝一　人と映像（岑村）	7	0	7
11	7	日	ライチョウの爪（宮野）	5	0	5
	14	日	処女峰アンナプルナ（岑村）	6	0	6
	21	日	山案内人の道具（関）	8	0	8
	28	日	蛹のいろいろ（清水）	5	4	9
12	5	日	企画展「山岳映画誕生」最終日解説（岑村）	11	0	11

	12	日	続・コマクサのおはなし（千葉）	6	0	6
	19	日	槇有恒のアイガー東山稜の初登攀 とその影響（柳澤）	3	0	3
	26	日	昆虫の冬越し　ー凍らないナゾー（清水）	1	0	1
1	9	日	真冬のライチョウ（宮野）	0	0	0
	16	日	遭難「大岩壁の墜落」（柳澤）	7	2	9
	23	日	お目出たい植物　福寿草（千葉）	0	0	0
	30	日	測量登山と地図（関）	12	0	12
2	6	日	寒冷とエネルギー（柳澤）	5	0	5
	13	土	冬のライチョウは真っ白（宮野）	6	2	8
	20	日	冬の民具（岑村）	6	0	6
	27	日	雪の上のエビフライ（清水）	8	0	8
3	6	日	安曇野の植物（これから楽しめるお花）（千葉）	3	0	3
	20	日	温暖化とライチョウ（宮野）	15	0	15
	27	日	博物学と登山（関）	4	0	4
開催回数			81 回	参加者合計	1119	107	1226

②概要および所見

担当者の得意分野において実施した。職員との生のやりとりに、プラスアルファの満足を覚えて帰る来館者が多く見受けられた。

（２）春の動物写生大会（担当　関）

①開催日：平成１６年４月２４日（土）～５月９日（日）※４月２６日（月）の休館日除く

②場　所：山岳博物館付属園

③講　師：荒井泰三（写生指導）〈協力：博物館友の会〉

④参加者数：１２０名（園児１１点、小学生１０４点、中学生５点）

⑤関係行事：

ａ．写生画審査会　５月１３日（木）　山岳博物館　講堂

ｂ．動物写生画展　７月３日（土）～１９日（月・祝）　山岳博物館　講堂

ｃ．動物写生画表彰式　７月１９日（月・祝）　山岳博物館２階　レクチャースペース

⑥概　要：

市内の幼稚園・保育園の園児、小・中学校の児童・生徒を対象にした付属園の動物や園内風景を画題とする写生大会であり、動物に親しみながら写生を楽しむ機会を提供し、毎年好評である。今回は開催日数を増やし、より多くの児童・生徒の方々に参加いただけるように対応した。特に開催期間中、市内小学校の２学年生のみなさんが写生の授業で来園し、その際に描いた作品が先生を通じて当館へ届き、本大会に学年単位で参加いただいた。

（３）小鳥の声を聞く会（担当　清水）

①開催日：平成１６年５月９日（日）

②場　所：山岳博物館から鷹狩山山頂

③講　師：腰原正己・鳥羽悦男・長澤修介（協力：博物館友の会）

④参加者数：一般１８名　友の会会員１６名　計３４名

⑤概　要：

野鳥を中心とした自然観察会を山岳博物館友の会の協力を得て実施した。観察した鳥類は３５種（キビタキ・サンコウチョウ・サンショウクイ・ツツドリなど)。

この観察会は、今回で２４回を数え鷹狩山での調査記録を蓄積した。このように同じ場所での調査を継続することにより、野鳥の生息動向などを知る重要な資料が得られる。事業の継続調査を望む。

（４）市制施行 50 周年記念フォーラム　－三つの極地から地球環境を考える－

（担当　柳澤・宮野）

①開催日：平成１６年７月１７日（土）

②場　所：サンアルプス大町

③基調講演

講師：太田昌秀（元ノルウェー極地研究所教授）

演題：「北極海の探検史と環境問題」

④パネルディスカッション

パネリスト：太田昌秀（元ノルウェー極地研究所教授）

小島秀康（国立極地研究所、第 44 次南極観測越冬隊長）

平林克敏（日本山岳会副会長、エベレスト登頂者）

コーディネーター：柳澤昭夫

テーマ：「三つの極地から地球環境を考える」

④参加者数：８１名

⑤概　要：

太田さんは北極の、小島さんは南極、平林さんからは高所の環境に関する現状と、課題について、また、現在おこなわれている取り組み等を述べていただいた。

まとめとして、環境問題の基本的な原因は、人間が未知に対する挑戦をし、その中で発見された法則等が経済活動に取り入れられ環境へのインパクトが始まる。これを整理し取り繕い、調和を保とうとするが、環境を統制することができなくなってきている。この最終結末は人類の絶滅となる。人間はもっと謙虚な気持ちになるべきで、自然を保護したり愛したりするのではなく、人間は自然の中で生かしてもらっているという意識改革がないと環境問題は解決しない。

（５）キノコ学習会（担当　千葉）

①開催日：平成１６年９月２３日（木）

②場　所：山岳博物館から鷹狩山周辺
③講　師：太田勇・飯島八郎・高野哲哉・清沢由之
④参加者数：４０名
⑤概　要：
　キノコ等を通して自然の仕組みと付き合い方を考えることを目的として実施した。野外で指導やテキスト配布は効果的であり、キノコを通して自然の仕組みや付き合い方を理解してもらえたと思う。今後はさらに理解を深めてもらうために展示も必要でると思われる。

２．各種実習への対応

（１）対応一覧

月　日	内　　容	実　　習　　者	担　　当
7／21～22	職業体験学習 動物飼育	小谷中学校３年生　２名	飯島、菅沼、倉間
7／28 ～8／21	動物飼育	ヤマザキ動物専門学校２年生　　１名	飯島、菅沼、倉間
8／2	職場体験学習 動物飼育	大町第一中学校２年生 ２名	倉間、飯島
9／7	職業体験学習 動物飼育	大町仁科台中学校２年生 ２名	飯島、倉間
9／14～26	学芸員実習	東京農業大学４年生　１名 信州大学４年生　１名	全員
11／26	職業研究 業務全般	大町北高等学校１年生 １名	講義のみ　全員対応
平成 17 年 1／5～14	現場実習 動物飼育	安曇養護学校３年生 １名	飯島、菅沼、倉間

（２）概要および所見

①職業体験学習
　主に動物飼育に関して、担当職員の指導で、餌の調理・給餌・清掃など一連の作業を体験していただいた。本年度も３週間にわたる中期実習があった。
②学芸員実習
　２名を約２週間受け入れた。特にキノコ展の準備において実践的な学習をしていただいた。

３．各種学習会等への館内対応

（１）対応一覧

月　日	内容（場所等）	主　催・参加者など	担　当
5／8	文化活動	中信地区スポーツ少年団連絡協議会	宮野

5／16	施設見学	大町市イベント実行委員会	宮野
5／18	施設見学	大町北小学校３年生	清水、千葉
5／21	登山事前学習	大町仁科台中学校２年生	柳澤、岑村、清水 千葉、関
5／25	登山事前学習	大町仁科台中学校２年生	柳澤、岑村、清水 千葉、関
5／25	新任教員研修	大町市教育委員会	柳澤
6／2	総合的な学習	白馬高等学校１年生	柳澤、岑村、関
6／6	里山の甲虫調査	山博友の会子供探検クラブ	清水
6／9	総合的な学習	白馬高等学校１年生	柳澤、岑村、関
6／17	登山事前学習	大町第一中学校２年生	柳澤、宮野、岑村 関
6／22	登山事前学習	大町高等学校１年生	柳澤、岑村、千葉
6／23	総合的な学習	白馬高等学校１年生	岑村、関
6／24	景観学習	北安曇地方事務所・景観サポーター	岑村
6／25	施設見学	北安曇教頭会	柳澤、清水、関
6／26	里山の甲虫調査	山博友の会子供探検クラブ	清水
7／2	登山事前学習	美麻中学校１、２年生	柳澤、千葉、関
7／4	里山の甲虫調査	山博友の会子供探検クラブ	清水
7／5	総合的な学習	大町西小学校４年生	岑村
7／30	講義	大北小中学校事務研究会	清水、関
7／31	里山の甲虫調査	山博友の会子供探検クラブ	清水
8／15	里山の甲虫調査	山博友の会子供探検クラブ	清水
8／30	展示・雪形説明	JA 越後長岡一行	関
9／4	里山の甲虫調査	山博友の会子供探検クラブ	清水
9／23	里山の甲虫調査	山博友の会子供探検クラブ	清水
10／8	施設見学	大町南小学校３年生	岑村、千葉
10／9	里山の甲虫調査	山博友の会子供探検クラブ	清水
10/23	里山の甲虫調査	山博友の会子供探検クラブ	清水

平成１７年

1／20	総合的な学習	大町南小学校３年生	清水

４．ボランティア活動（担当　宮野）

（１）友の会との連携

月日	内　　容	人員
5／9	小鳥の声を聞く会サポート	４名
7／17	市制施行 50 周年記念ﾌｰﾗﾑ ―三つの極地から地球環境を考える―ｻﾎﾟｰﾄ	６名

9／23	キノコ学習会サポート	4名

（２）その他

月　日	内　　容	団　体　名	人員
7／22	博物館周辺清掃活動	有明高原寮	30名

５．テレビ・ラジオ・新聞等への出演・協力

①４月１５日（木）　テレビ朝日、雪形ロケハン対応（担当　岑村）
②５月１９日（水）　エフエム富士取材
③７月１６日（土）　信濃毎日新聞、里山の甲虫調査（担当　清水）
④８月５日（木）　大糸タイムス、里山の甲虫調査（担当　清水）
⑤１１月１１日（木）　NBS長野放送、企画展取材（関）
⑥１２月９日（木）　ＮＨＫ長野、ニホンカモシカ取材（担当　清水）
⑦平成１７年１月１８日（火）ＮＨＫ長野、ニホンカモシカ取材（担当　清水）
⑧１月２５日（火）　NHK長野、登山史取材「信濃今昔物語」2回分撮影（担当　関）
⑨２月１５日（火）　大糸タイムス、ニホンカモシカ（担当　清水）

６．ホームページ（担当　千葉）

ほぼ毎日、学芸員情報・イベント・「山と博物館」などを更新。１日あたり２０～３０件のアクセスがあり、概ね好評であると捉えることができる。

http://www.city.omachi.nagano.jp/sanpaku/

７・出版物一覧

以下、大町山岳博物館編

書　　名	発行先	発行年	備　考
山と博物館	大町山岳博物館	毎月25日	年間購読､館内販売
展示情報シート	大町山岳博物館		館内にて販売中
総合案内	大町山岳博物館	1993年	〃
カモシカ　氷河期を生えた動物	信濃毎日新聞社	1991年	書店にて販売中
ライチョウ　生活と飼育への挑戦	信濃毎日新聞社	1992年	〃
新･北アルプス博物誌	信濃毎日新聞社	2001年	〃
ブルーガイド旅読本 上高地　安曇野　輝ける大地の自然と人	実業之日本社	2002年	〃

（１）展示案内『北アルプスの自然と人』の編集・出版（担当　関）

当館では財団法人日本生命財団の出版助成を得て、展示案内『北アルプスの自然と人』（常設展示図録）を編集し、平成17年4月10日（予定）に刊行することとなった。これは、同

財団のご厚意により、八坂村・美麻村・大町市の合併による新市誕生（平成 18 年 1 月予定）に合わせた出版である。

仕様は次の通り。部数 1000 部、体裁 A5 判 56 頁（うちカラーは 23～31 頁）、定価 350 円。本書の執筆は主に当館職員が行った。ただし、地質分野については外部の専門家先生方に依頼した。また、各専門の先生方に校閲していただき、監修を行なっていただいた。

（２）『山と博物館』総目次（第 35 巻 1 号～第 47 巻 3 号）および合本（担当　関）

当館機関誌『山と博物館』は昭和 31 年（1956）の創刊以来、定期的に総目次を発行し、合本して製本してきた。合本はこれまでに 5 冊におよび、最近の合本が製本されてから 10 年以上が経過したので新しく合本（体裁：A4 変形判、ハードカバー、合本数：150 部）し、それに対応する総目次（体裁：A4 変形判、部数：100 部）を発行した。なお、総目次と合本は市内小・中学校の図書室および、市立図書館、国会図書館などへ寄贈した。

（３）『山と博物館』総目次（第 47 巻 4 号～第 49 巻 12 号）および合本（担当　関）

当館機関誌『山と博物館』は第 47 巻 4 号から体裁を変更した。また、創刊から 50 年を迎えることから、前述の巻号から第 50 巻 1 号未満を合本（体裁：A4 判、ハードカバー、合本数：100 部）し、それに対応する総目次（体裁：A4 判、部数：100 部）を発行した。なお、総目次と合本は市内小・中学校の図書室および、市立図書館、国会図書館などへ寄贈した。

８．館外の活動への参加・協力

（１）館外の活動への参加・協力

①参加・協力一覧

月　日	内　容　（場所等）	主　　催	担　当
5／4	植物観察（居谷里湿原）	文化財センター	千葉
5／15	自然観察（大町市児童館周辺）	大町市児童館	清水
5／22	全国雪形ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ　ｵｰﾌﾟﾆﾝｸﾞﾄｰｸ「雪形って何だろう？」（大町市文化会館）	大町市　北アルプス雪形まつり実行委員会	関
5／22	雪形ウォッチング（南北安曇）	第 3 回雪形まつり実行委員会	岑村
6／6	針ノ木岳慎太郎祭	慎太郎祭実行委員会	柳澤、千葉
7／8	登山事前学習（校内）	木島平中学校	柳澤
7／27～28	全校登山（白馬岳、五龍岳～唐松岳）	大町高等学校	千葉、関
7／30	野外実習（親海湿原）	大町高等学校	千葉
7／31～8／1	大町市民登山（常念岳～蝶ヶ岳）※しおり作成協力も含む	大町市教育委員会体育課	峯村、関
8／24	昆虫生態講義（校内）	大町北小学校	清水

8／28～29	講師研修会（扇沢支流奥小沢）	長野県山岳総合センター	柳澤
9／11～12	夏山登山の危急時対策（鹿島川支流アラ沢）	長野県山岳総合センター	柳澤
10／3	自然観察（龍神湖周辺）	国土交通省大町ダム管理所	清水、千葉
10／8	総合的な学習（八方池）	大町西小学校４年２組	宮野
11/13～14	長野県登山案内人研修会（長野県山岳総合センター他）	長野県山岳総合センター	柳澤

平成１７年

1／29～30	講師研修会（鹿島槍ヶ岳東尾根支尾根他）	長野県山岳総合センター	柳澤
3／12～12	リーダーコース終了研修（長野県山岳総合センター他）	長野県山岳総合センター	柳澤

Ⅵ　友の会活動（担当　宮野）

１．組織

（１）役員

①会長…長沢正彦

②副会長…渡辺逸雄、有川劭

③運営部…部長：丸山卓哉　部員：倉科恵一、越山頼子、園田弘美、谷口澄子、佃廣幸
廣瀬誠、宮澤洋介、山崎一彦、川崎晃、川崎祐子
井口まり、塩瀬淳也、松坂美治子

④編集部…部長：宮沢洋介　部員：木村節子、丸山卓哉、岑村隆

⑤事務局…水口貴喜美代、塚田恵美子、田村佳美、宮野典夫

⑥監査…塚田千代美、有川美保子

（２）構成

①ファミリー会員…139 ファミリー、499 人

②個人会員…91 人

③学生会員…１人

④賛助会員…１団体

⑤終身会員…3 人

⑥名誉会員…5 名

（平成 16 年 3 月 31 日現在）

２．運営部活動

３月１４日（日）　平成 16 年度総会
記念講演：長沢武「暮らしの中に生きていた植物たち」　41 名

４月１１日（日）　史跡・美術館・博物館めぐり「塩尻市の博物館めぐり」　19 名

５月１４日（金）　第１回月例会

６月１５日（木）　第２回月例会
７月１１日（日）　自然観察会「大町ダムと龍神湖の探検」　26 名
７月１４日（水）　第３回月例会
９月　４日（土）～５日（日）
自然観察登山「燕・大天井・常念～パノラマ縦走」　11 名
９月１４日（火）　第４回月例会
１０月１４日（木）　第５回月例会
１０月２４日（日）　塩の道を歩く「秋の鳥越峠を行く」　24 名
１１月１４日（日）　第６回月例会
１２月　５日（日）　安曇地域の食文化「そば打ち」　18 名
１２月１４日（火）　第７回月例会
１月１４日（金）　第８回月例会
２月　６日（日）　冬の自然観察会「歩くスキーと自然観察会」　6 名
２月１５日（月）　第９回月例会
３月１３日（日）　平成 17 年度総会
記念講演：尾沢洋「山への思いーあこがれから行動へー」　25 名

３．事業部活動

（１）喫茶「こまくさ」の営業

営業期間は平成１６年４月１０日（土）～平成１６年９月３０日(木)
１階ホール脇スペースでのサービス提供

４．編集部活動

刊　行　物　名	発 行 日	主　な　内　容
ゆきつばき通信 111 号	4 月 1 日	行事案内…「塩尻市の博物館めぐり」 報告…平成 16 年度友の会総会、総会記念講演要旨 博物館から…写生大会、小鳥の声を聞く会
ゆきつばき通信 号外	5 月 14 日	博物館から…全国雪形フェスティバル第 3 回北アルプス雪形まつり
ゆきつばき通信 112 号	6 月 29 日	行事案内…自然観察「大町ダムと龍神湖の探検」、自然観察登山「燕・大天井・常念～パノラマ縦走」 報告…塩尻市の博物館めぐり 博物館から…大町市制施行 50 周年記念フォーラム「三つの極地から地球環境を考える」、森下恭写真展「おおいなる黒部」
ゆきつばき通信 号外	9 月 7 日	行事案内…キノコ学集会、塩の道を歩く、伝統食を作ろう 博物館から…キノコ展、伊藤孝一没後 50 年　山岳映画誕生

ゆきつばき通信 113 号	10 月 5 日	行事案内…塩の道を歩く「秋の鳥越峠を行く」、安曇地域の食文化「そば打ち」 報告…大町ダムと龍神湖の探検、燕・大天井・常念～パノラマ縦走、喫茶売店こまくさ 博物館から…伊藤孝一没後 50 年「山岳映画誕生」、映像企画「山嶽活寫－それは、ホームムーヴィーからはじまった－」
ゆきつばき通信 号外	12 月 1 日	行事案内…月例会と忘年会、ゆきつばき 33 号の原稿募集
ゆきつばき通信 114 号	1 月 15 日	行事案内…冬の自然観察「歩くスキーと自然観察会」、総会 報告…秋の鳥越峠を行く、そば打ち 博物館から…山博おもしろミニゼミ
ゆきつばき 第 33 号	3 月 13 日	特集…とっておきのビューポイント 友の会ひろば…行事参加者の感想 三角点…会員の投稿、雑感 行事グラフ…写真で綴る年間行事の紹介 サークルだより…烏帽子の会と子ども探検クラブの報告
ゆきつばき通信 115 号	3 月 30 日	行事案内…塩の道を歩く「古道　栗峠を歩く」 報告…歩くスキーと自然観察会、総会報告 博物館から…小鳥の声を聞く会、写生大会、企画展案内

5．サークル活動

（1）子供探検クラブ

野外活動を中心になんでもやってみようという小中学生のサークル

６月　６日（日）自己紹介、今年の計画（山岳博物館）子供 11 名・大人 5 名
６月２６日（土）カブトムシにマーキングをしよう（山岳博物館）子供 15 名・大人 3 名
７月　４日（日）カブトムシの幼虫の観察（市民の森）子供６名・大人７名
７月３１日（土）カブトムシの勉強会（山岳博物館）子供６名・大人４名
８月１４日（土）谷間から星空を見るキャンプ（篭川支流の白沢）子供 13 名・大人 7 名
８月１５日（日）谷の奥地へ探検だ（篭川支流の白沢）子供 10 名・大人５名
８月１５日（日）カブトムシの採集とマーキング（山岳博物館周辺）子供６名・大人５名
９月　４日（土）カブトムシの調査まとめ（山岳博物館）子供４名・大人５名
９月２３日（木）カブトムシの体の構造を知る（山岳博物館）子供７名・大人３名
１０月　９日（土）カブトムシの体の構造・標本作り（山岳博物館）子供 3 名・大人 2 名
１０月２３日（土）カブトムシの住みか作り（常盤・長畑）子供 4 名・大人 2 名
１１月１４日（日）ままこ落としトレッキング（池田町）子供１名・大人 7 名
３月２７日（日）布引滝への探検（鹿島川支流）子供３名・大人５名

（2）烏帽子の会

山歩きのサークル

「連れてってもらう登山」ではなく「連れてってやる山行」、「次はどの山に行こう」という雰囲気で身近な山に登るサークル

５月２３日（日）　長者山（信州新町）10 名

７月１８日（日）　蓼科山（立科町）10 名

９月２０日（日）　柄山峠（鬼無里村）12 名

１１月　６日（土）　独鈷山（丸子町）10 名

１月２９日（土）　守屋山（茅野市）10 名

３月２７日（日）　浅間山（白馬村）5 名

Ⅶ　ライチョウ保護事業関連

１．山岳博物館ライチョウ保護事業検討委員会　（担当　清水）

当館ではライチョウ飼育研究に取り組みこれまで４０年にわたり低地飼育を実施してきた。平成１６年２月に最後の１個体が死亡したことを契機に過去の事業について見直し、今後の取り組みについて検討する委員会を開催した。平成１７年度春頃までに、実施してきた事業に対しての客観的な評価と、今後大町市として取り組むべきライチョウ保護事業指針についての提言をいただく予定でいる。

委員

委員長：武田武（山岳博物館協議会）

副委員長：高石道明（信州大学山岳科学総合研究所）

低地飼育分野：村田浩一（日本大学・獣医学）・山口剛士（岐阜大学・獣医微生物学）

野外調査研究分野：中村浩志（信州大学・動物生態学）・土田勝義（信州大学・植物生態学）

社会教育分野：腰原正己（穂高西小学校長・日本野鳥の会）

オブザーバー

環境省自然環境局・文化庁記念物課・林野庁中部森林管理局・長野県生活環境部環境自然保護課・長野県林務部森林保全課・長野県教育委員会文化財生涯学習課

第１回大町山岳博物館ライチョウ保護事業検討委員会

日時：平成１６年９月６日　１４時３０分～１７時

場所：大町市役所東中会議室

出席者：武田武・高石道明・中村浩志・土田勝義・腰原正己

環境省（蟹江志保・加藤志穂子）・林野庁（有井寿美男）・長野県自然保護課（江住和彦）・長野県森林保全課（小池一成）・長野県文化財生涯学習課（小池功治）

大町市（腰原愛正・丸山一由・相沢文人・柳澤昭夫・宮野典夫・岑村隆・清水博文・千葉悟志）

内容：・本検討委員会設置の主旨について説明

・委員長・副委員長の選出

・今までの成果について説明・意見交換

第２回大町山岳博物館ライチョウ保護事業検討委員会

日時：平成１６年１１月１９日　１４時００分～１６時３０分

場所：大町市役所東中会議室

出席者：武田武・高石道明・土田勝義・腰原正己・村田浩一・山口剛士

環境省（蟹江志保・加藤志穂子）・長野県自然保護課（江住和彦）・長野県文化財生涯学習課（小池功治）

大町市（丸山一由・相沢文人・柳澤昭夫・宮野典夫・清水博文・千葉悟志・関悟志）

内容：・今までの成果について追加説明・意見交換

・課題についての検討方法について（今後３つの小委員会に分かれ第三回検討委員会まで具

体的検討を行う）

社会教育分野小委員会　平成１６年１２月２２日・平成１７年２月７日開催
野外調査分野小委員会　平成１６年１２月２８日開催
低地飼育分野小委員会　平成１７年２月２８日開催
小委員会統括会議　　平成１７年３月９日開催

第３回大町山岳博物館ライチョウ保護事業検討委員会
日時：平成１７年３月１５日　１４時００分～１６時３０分
場所：大町市役所西会議室
出席者：武田武・高石道明・土田勝義・腰原正己・村田浩一・山口剛士・中村浩志
環境省（蟹江志保・加藤志穂子）・林野庁（有井寿美男）・長野県自然保護課（江住和彦）・長野県森林保全課（小池一成）・長野県文化財生涯学習課（小池功治）
大町市（丸山一由・相沢文人・柳澤昭夫・宮野典夫・清水博文・千葉悟志・関悟志）
内容：・各小委員会における検討結果と提案について

２．　第５回ライチョウ会議大会　（担当　清水・千葉）

平成１６年８月２２日～８月２３日の２日間、高山市市民ホールで、行政・研究者等約８０名が参加した。中部山岳に生息しているライチョウの解明をとおし、保護と人との共存の道を探る目的で、１日目セッション１「乗鞍岳のライチョウ」、セッション２「各地の調査・研究報告」・「ライチョウ会議総会」の場では、それぞれの研究・活動報告、行政・研究者等との情報交換を行い、ライチョウ調査・研究の現状把握とその方向性を探った。２日目にはシンポジウム「ライチョウは生き残れるか？－地球温暖化とライチョウ－」として一般者向けの基調講演・パネルディスカッションを行った。

今後も当面事務局は大町市が行い、平成１５年より発足したNPO法人ライチョウ保護研究会との協力体制や、組織など会のあり方については昨年に引き続き検討を行う。次回会議開催の開催地は山梨県南アルプス市で行う準備を進めている。

Ⅷ　その他

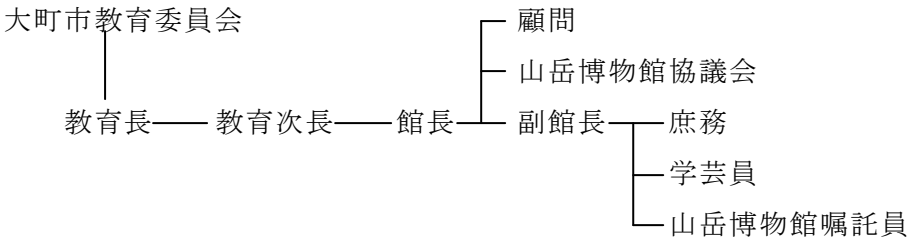
１．理事・会長・委員

高山植物等保護対策協議会中信地区理事（柳澤）
北アルプス北部地区山岳遭難防止対策協会参与（柳澤）
大町博物館連絡会会長（柳澤）
大町市観光協会理事（柳澤）
大北地方特定鳥獣保護管理対策協議会委員（清水）
長野県山岳総合センター運営懇談会委員（柳澤）
ライチョウ会議検討委員（柳澤）
桜まつり実行委員（柳澤・宮野）
慎太郎祭実行委員（柳澤・千葉）
大町ダム水源流域ビジョン推進方策発案会議委員（宮野）
市制 50 周年記念イベント実行委員会専門部会委員（宮野）
仁科三湖対策協議会（宮野）
北アルプス雪形まつり実行委員（岑村・関）
長野県版レッドデータブック脊椎動物専門部鳥類調査協力者（清水）
三郷村誌編纂委員会調査協力員（清水）
山梨県南アルプス高山帯生態系調査検討委員（清水）

Ⅸ　運　営　（記入担当　宮野）

1．組織および職員構成

（1）組織



（2）顧問

平林国男（平成 16 年 9 月 20 日逝去）、千葉彬司

（3）山岳博物館協議会委員

学校関係者：増澤利定

社会教育関係者：武田武（会長）、有川美保子、松原繁、横川仁

知識経験者：藤沢秀（福会長）、飯沢茂雄、井口まり、金原義子、高石道明、朝重孝治

（4）職員名簿

館　長　柳澤昭夫（嘱託）

副館長　宮野典夫（学芸員および庶務兼務）

学芸員　（自然科学系）清水博文、千葉悟志

（人文科学系）岑村隆、関悟志

臨時職員（庶務）元村明代、勝野和子

（動物飼育）菅沼光雄、横澤志津、倉間友恵

（5）人事異動

新規採用　元村明代（平成 16 年 4 月 20 日）

勝野和子（平成 16 年 10 月 19 日）

退　　職　元村明代（平成 16 年 10 月 15 日）

勝野和子、菅沼光雄（平成 17 年 3 月 30 日）

２．協議会

（１）第１回協議会

① 日時：平成１６年７月１３日　午前 10 時～午後 12 時

② 場所：長野県山岳総合センター

③ 出席者：武田武、藤沢秀、増澤利定、有川美保子、松原繁、金原義子、飯沢茂雄、

高石道明、井口まり、朝重孝治

丸山一由、柳澤昭夫、宮野典夫、岑村隆、清水博文、千葉悟志、関悟志

④ 内容：・報告

平成１５年度経過報告として入館者状況、展示事業、資料収集保管事業、動物

飼育・傷病鳥獣保護事業、ライチョウ保護事業、教育普及事業、友の会活動、その他

平成１６年度事業の進捗状況として市制施行 50 周年記念フォーラム、特別展市制施行 50 周年記念「森下恭写真展」－大いなる黒部－、企画展伊藤孝一没後 50 年「山岳映画誕生」、シベリアオオヤマネコのブリーディングローンについて、カモシカの状況について、「展示案内」書（ニッセイ財団助成）の編集状況について

・協議

ライチョウ保護事業について（ライチョウの研究、ライチョウ研究を進めるにあたっての体制づくり、検討委員会の設置）

（２）第２回協議会

①日時：平成１６年１１月２日　午後１：00～5：00

②場所：国営アルプスあづみの公園（穂高堀金地区および大町松川地区）
大町市役所第四会議室

③出席者：武田武、藤沢秀、増澤利定、有川美保子、横川仁、松原繁、金原義子、飯澤茂雄、高石道明、井口まり、朝重孝治
柳澤昭夫、宮野典夫、岑村隆、清水博文、千葉悟志、関悟志

④内容：・視察　国営アルプスあづみの公園（穂高堀金地区および大町松川地区）

・報告　第１回ライチョウ保護事業検討委員会

・意見交換

国営アルプスあづみの公園視察の感想

（３）第３回協議会

①日時：平成１７年３月２５日　午後３：00～5：00

②場所：山岳博物館講堂

③出席者：武田武、藤沢秀、増澤利定、有川美保子、松原繁、金原義子、飯澤茂雄、高石道明、朝重孝治
柳澤昭夫、宮野典夫、清水博文

④内容：・報告

平成１６年度経過報告として入館者状況、展示事業、資料収集保管事業、動物飼育・傷病鳥獣保護事業、ライチョウ保護事業、教育普及事業、友の会活動、その他

・協議

ライチョウ保護検討委員会として、経過、小委員会報告、その他
平成 17 年度事業として、事業計画、予算
国営アルプスあづみの公園について

３．入館者状況

（1）創立からの入館者状況

単位：人

年度	有料入館者							無料入館者			
	個人			団体			計	一般	市内		計
	大人	高校生	小中生	大人	高校生	小中生		減免	65～	小中	
昭和 26	291		100	21		77	489				
昭和 27	2,425		1,022	186		1,514	5,147				
昭和 28	8,922		2,229	725		1,216	13,092				
昭和 29	7,779		1,831	625		1,189	11,424				
昭和 30	6,831		1,664	1,445		945	10,885				
昭和 31	2,148		888	1,036		858	4,930				
昭和 32	1,934		658	826		1,880	5,298				
昭和 33	2,979		1,032	1,469		2,417	7,897				
昭和 34	2,972		626	1,727		1,788	7,113				
昭和 35	3,635		878	1,943		2,143	8,599				
昭和 36	4,181		1,329	2,132		2,521	10,163				
昭和 37	5,313		1,633	4,549		2,748	14,243				
昭和 38	6,394		1,854	4,727		2,918	15,893				
昭和 39	10,464		1,658	12,600		1,520	26,242				
昭和 40	14,214		1,696	8,050		1,600	25,560				
昭和 41	10,399		1,711	13,070		1,500	26,680				
昭和 42	12,891		1,649	8,301		3,059	25,900				
昭和 43	18,458		2,071	17,769		3,240	41,538				
昭和 44	16,273		2,100	10,845		3,749	32,967				
昭和 45	13,405		1,941	11,623		3,960	30,929				
昭和 46	18,414		3,001	14,718		3,193	39,326				
昭和 47	17,500		3,025	13,268		6,877	40,670				
昭和 48	25,809		4,178	22,612		5,774	58,373				
昭和 49	28,702		4,277	23,432		5,843	62,254				
昭和 50	32,345		4,896	23,616		6,835	67,692				
昭和 51	32,111		5,142	25,150		8,200	70,603				
昭和 52	26,155		4,311	18,907		5,327	54,700				
昭和 53	26,346		4,158	24,903		8,722	64,129				
昭和 54	27,769		4,485	25,089		6,600	64,003				
昭和 55	25,743		4,414	19,909		6,972	57,038				
昭和 56	31,697		7,558	16,182		9,695	65,132				

昭和 57	31,894	809	6,400	10,391	5,827	6,929	62,250	7,965			7,965
昭和 58	33,590	988	6,632	15,885	7,992	12,303	77,390	9,026			9,026
昭和 59	30,335	816	5,905	12,969	9,172	15,070	74,267	8,117			8,117
昭和 60	36,686	1,142	8,025	22,782	8,559	15,902	93,096	6,770			6,770
昭和 61	34,797	1,086	6,109	16,001	8,107	16,069	82,169	4,509			4,509
昭和 62	33,132	918	5,581	18,751	7,065	17,186	82,633	3,605			3,605
昭和 63	36,116	841	5,932	14,947	6,085	14,735	78,656	6,269			6,269
平成元	41,018	1,199	6,450	13,191	4,650	10,527	77,035	3,709			3,709
平成 2	43,444	1,108	6,752	16,486	3,045	7,119	77,954	4,844			4,844
平成 3	47,004	1,276	7,313	13,817	4,212	8,278	81,900	4,577			4,577
平成 4	42,197	725	5,719	13,068	1,687	7,015	70,411	3,413			3,413
平成 5	45,182	809	5,807	12,249	2,807	5,325	72,179	3,587			3,587
平成 6	38,354	933	4,809	10,561	1,932	4,974	61,563	3,376			3,376
平成 7	37,356	981	4,650	9,493	1,840	4,164	58,484	5,376			5,376
平成 8	36,002	869	4,189	6,601	1,905	2,244	51,810	2,174			2,174
平成 9	31,119	626	3,417	7,626	1,245	2,100	49,143	1,429			1,429
平成 10	28,219	637	3,105	6,023	764	2,006	40,754	1,686			1,686
平成 11	24,220	482	2,200	4,766	561	1,183	33,412	1,206			1,206
平成 12	23,082	501	2,273	5,344	648	1,024	32,874	1,187			1,187
平成 13	24,064	439	2,163	3,389	671	1,577	32,304	1,497	387	826	2,710
平成 14	20,527	472	1,744	2,518	675	808	26,744	945	190	445	1,625
平成 15	19,693	535	2,152	2,184	785	1,082	26,431	990	285	616	1,777
平成 16	14,664	376	1,073	2,875	602	644	20234	604	51	662	1,317

（２）平成 16 年度の入館者状況　　単位：人

月	有料入館者							無料入館者			
	個人			団体			計	一般	市内		計
	大人	高校生	小中生	大人	高校生	小中生		減免	65～	小中生	
4 月	955	14	43	174	0	142	1,328	42	3	95	140
5 月	1,881	45	187	386	0	50	2,549	31	5	245	281
6 月	947	70	23	211	204	2	1,457	38	15	31	84
7 月	2,076	43	104	449	325	87	3,084	97	8	69	174
8 月	3,558	150	508	338	10	111	4,675	102	5	5	112
9 月	1,242	13	49	909	63	3	2,279	22	5	24	51
10 月	1,656	11	51	263	0	163	2,144	44	1	141	186
11 月	887	12	29	63	0	53	1,044	108	8	5	121

12 月	296	3	9	0	0	0	308	9	0	0	9
1 月	209	2	13	39	0	1	264	1	1	28	30
2 月	353	6	17	0	0	32	430	97	0	2	99
3 月	582	7	40	43	0	0	672	13	0	17	30
合計	14,664	376	1,073	2,875	602	644	20,234	604	51	662	1,317
15 年度	19,693	535	2,152	2,184	785	1,082	26,431	990	285	616	1,891
前年度比	75%	70%	50%	132%	77%	60%	77%	61%	18%	107%	70%

4．平成 16 年度予算・決算

(1) 歳入

単位：円

項　目	観覧料	望遠鏡使用料	寄付金	雑入	計
予算額	12,240,000	200,000	1,107,000	1,104,000	14,651,000
決算額	7,446,350	98,100	1,107,150	1,005,903	9,657,503
比較	△4,793,650	△101,900	150	△98,097	△4,993,497

(2) 歳出

単位：円

項　目	総務費	一般事業費	ライチョウ等 山岳動物保護管理費	計
予算額	50,886,000	4,532,000	9,171,000	64,589,000
決算額	49,960,597	5,036,361	11,492,198	66,489,156
比較	△925,403	504,361	3,115,531	1,900,156

Ｘ　関係条例・規則

１．市立大町山岳博物館条例

昭和 57 年３月 29 日
条例第 12 号

改正　昭和 61 年３月 24 日条例第８号　　平成元年３月 24 日条例第７号
平成４年３月 31 日条例第８号　　平成５年 12 月 24 日条例第 32 号
平成 12 年３月 29 日条例第 13 号　　平成 13 年３月 27 日条例第 13 号

市立大町山岳博物館条例（昭和 29 年条例第 18 号）の全部を改正する。

（目的）

第１条　この条例は、博物館法（昭和 26 年法律第 285 号。以下「法」という。）第 18 条及び地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 244 条の２第１項の規定に基づき、博物館の設置及び管理運営に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

（設置）

第２条　山岳に関する資料並びにこの地方における民俗、歴史その他の資料を収集して、保管又は展示し、一般の観覧に供し、本邦における山岳文化等の普及並びにこれらの資料の調査研究を行うため博物館を設置する。

（名称及び位置）

第３条　博物館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名称　市立大町山岳博物館（以下「博物館」という。）

位置　大町市大字大町 8056 番地１

（職員）

第４条　法第４条の規定による館長、学芸員のほか必要な職員を置く。

２　必要に応じ顧問及び嘱託員を置くことができる。

（観覧料）

第５条　博物館を観覧しようとする者は、別表第１に定める観覧料を納付しなければならない。ただし、次に掲げる者は、この限りでない。

（１）　６歳未満の者

（２）　市内の小学校及び中学校に在学する児童又は生徒

（３）　市内に住所を有する満 65 歳以上の者

（使用料）

第６条　博物館の設備使用料は、別表第２に定めるとおりとする。

（観覧料の減免）

第７条　大町市教育委員会（以下「教育委員会」という。）は、特別な理由があると認めるときは、観覧料を減免することができる。

（資料の特別利用）

第８条　博物館資料を学術研究等のため特に利用しようとする者は、教育委員会の承認を受けなければならない。

（賠償責任）

第９条　故意又は過失により、博物館の資料、施設等を破損し、又は滅失したときは、教育委員会の命ずるところにより、これを原状に復し、又は損害を賠償しなければならない。

（博物館協議会）

第 10 条　法第 22 条の規定により、市立大町山岳博物館協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

２　協議会の委員（以下「委員」という。）の数は、15 人以内とし、教育委員会が委嘱する。

３　委員の任期は、２年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委任）

第 11 条　この条例に定めるもののほか必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附　則

１　この条例は、昭和 57 年６月５日から施行する。

２　この条例施行の際、現に市立大町山岳博物館条例（昭和 29 年条例第 18 号）第５条の規定により委員として委嘱された者は、この条例第 10 条の規定により委嘱されたものとみなし、任期は、同条第３項の規定にかかわらず、昭和 58 年３月 31 日までとする。

附　則（昭和 61 年３月 24 日条例第８号）

この条例は、昭和 61 年４月１日から施行する。

附　則（平成元年３月 24 日条例第７号）

この条例は、平成元年４月１日から施行する。

附　則（平成４年３月 31 日条例第８号）

この条例は、平成４年４月１日から施行する。

附　則（平成５年 12 月 24 日条例第 32 号）

この条例は、平成６年４月１日から施行する。

附　則（平成 12 年３月 29 日条例第 13 号）

この条例は、平成 12 年４月１日から施行する。

附　則（平成 13 年３月 27 日条例第 13 号）

この条例は、平成 13 年４月１日から施行する。

別表第１（第５条関係）

種別	区分	単位	観覧料
一般	大人	１人	400 円
	高校生	〃	300
	小人	〃	200
団体 （30 人以上の場合をいう。）	大人	〃	350
	高校生	〃	250
	小人	〃	150

備考

特別の資料を展示する場合は、1,000 円の範囲内においてその都度教育委員会が定める額とする。

別表第２（第６条関係）

望遠鏡使用料	１回	100 円

２．市立大町山岳博物館規則

昭和 57 年３月 30 日
教育委員会規則第３号

改正平成元年３月 31 日教委規則第３号
平成９年 12 月 26 日教委規則第３号
平成 12 年３月 30 日教委規則第９号

（趣旨）

第１条　地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 33 条第１項及び市立大町山岳博物館条例（昭和 57 年条例第 12 号。以下「条例」という。）第 11 条の規定に基づき、市立大町山岳博物館（以下「博物館」という。）の管理運営並びに市立大町山岳博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（職務）

第２条　館長は、上司の命を受け、館を統括し、所属職員を指揮監督する。

２　学芸員は、館長の命を受け、博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第４条第４項に規定する職務を遂行する。

３　その他の職員は、館長の命を受け、職務を遂行する。

４　館長を補佐するため、副館長を置くことができる。副館長は、係長相当職をもって充てる。

５　嘱託員は、学術に関する職務に従事する。

（休館日）

第３条　博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、臨時に開館又は休館することができる。

（１）　毎週月曜日

（２）　国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日の翌日（この日が月曜日に当たるときは、その翌日）

（３）　12 月 29 日から翌年１月３日までの日（前号に掲げる日を除く。）

（開館時間）

第４条　博物館の開館時間は、午前９時から午後５時までとする。ただし、教育委員会が特に必要と認めたときは、これを変更することができる。

（観覧券の交付）

第５条　条例第５条の規定による観覧料の納付があったときは、観覧券（様式第１号）に領収印を押印し、交付するものとする。

（観覧料の減免）

第６条　条例第７条の規定による観覧料の減免を受けようとする者は、博物館観覧料減免申請書（様式第２号）を教育委員会に提出し、承認を得なければならない。

（博物館資料の利用等）

第７条　条例第８条の規定により博物館の資料を利用しようとする者は、市立大町山岳博物館資料特別利用許可申請書（様式第３号）を教育委員会に提出し、承認を得なければならない。

２　前項の規定による資料の利用期間は、30 日以内とする。ただし、教育委員会が必要と認めた場合は、延長することができる。

（入館制限等）

第８条　教育委員会は、次の一に該当するときは、入館を拒否し、退館を命じ、又は許可を取り消し、その他必要な措置を講ずることができる。

（１）　公の秩序又は善良な風俗を害するおそれがあると認められるとき。

（２）　管理上支障があると認められるとき。

（３）　その他教育委員会が必要と認めるとき。

（資料の寄贈及び寄託）

第９条　博物館は、資料の寄贈及び寄託を受けることができる。資料を寄贈及び寄託しようとする者は、博物館資料寄贈・寄託書（様式第４号）を教育委員会に提出するものとする。

２　寄託を受けた博物館資料は、寄託者の請求によりこれを返還する。

３　博物館は、寄託を受けた博物館資料が災害その他不可抗力によって滅失又は損傷した場合は、損害賠償の責を負わない。

４　寄贈又は寄託を受けた博物館資料は、一般の資料と同一の取扱いをするものとする。

（資料等の滅失・損傷）

第 10 条　館長は、博物館の資料、施設等が滅失又は損傷したときは、速やかに教育委員会に報告し、その指示を受けなければならない。

（協議会の組織）

第 11 条　協議会に、委員の互選による会長及び副会長各１名を置く。

２　会長は、会務を総理し、会議の議長となる。

３　副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。

（協議会の会議）

第 12 条　協議会の会議は、館長の諮問により会長が招集する。

２　協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

３　会議の議決は、出席委員の過半数の賛成がなければならない。

附　則

１　この規則は、昭和 57 年６月５日から施行する。

２　市立大町山岳博物館規程（昭和 29 年教育委員会規則第９号）及び市立大町山岳博物館協議会規程（昭和 29 年山岳博物館規程第１号）は、廃止する。

附　則（平成元年３月 31 日教委規則第３号）

この規則は、平成元年４月１日から施行する。

附　則（平成９年 12 月 26 日教委規則第３号）

この規則は、平成 10 年１月１日から施行する。

附　則（平成 12 年３月 30 日教委規則第９号）

この規則は、平成 12 年４月１日から施行する。

様式（省略）

Ⅺ　利用案内

交　通

ＪＲ信濃大町駅から　タクシーで５分　歩いて２５分

長野自動車道豊科Ｉ.Ｃより　４０分

開館時間

午前９時～午後５時　※入館は午後４時３０分まで

休館日

月曜日、祝日の翌日　※月曜日が祝日の場合は開館し翌日休館

７月～８月は無休

入館料

大人 400 円　　高校生 300 円　　小・中学生 200 円　※３０名以上の団体は各５０円割引

※そのほか各種割引あり

所在地と連絡先

〒398-0002　長野県大町市大字大町８０５６－１

ＴＥＬ：0261-22-0211／ＦＡＸ：0261-21-2133

E-mail：sanpaku@city.omachi.nagano.jp

URL：http://www.city.omachi.nagano.jp/sanpaku/

市立大町山岳博物館　平成16年度年報

2005年 12 月 20 日

編集･発行　市立大町山岳博物館

制作・印刷　㈱奥村印刷